短期予報解説資料　２０２６年９月２８日１５時４０分発表

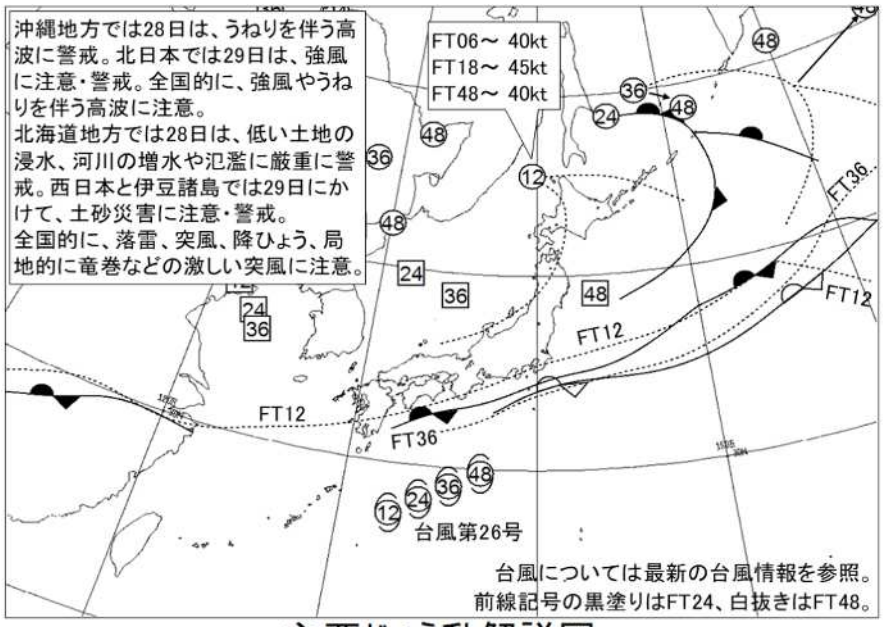
気象庁

１．実況上の着目点

① 非常に強い台風第26号は大東島地方の北を東北東進。台風接近中の大東島地方では大しけとなっている。台風の中心付近では雷を伴う非常に激しい雨を解析。

② 前線が、西日本や東日本南岸付近にほとんど停滞。西日本や伊豆諸島で激しい雨や非常に激しい雨を観測。本州南岸で多数発雷し、伊豆諸島で気象防災速報(竜巻注意)発表。

③ 500hPa 5580m付近で-21℃以下の寒気を伴うトラフ対応の低気圧が、前線を伴い日本海を北東進。北日本で激しい雨を観測。500hPa 5700m付近で-15℃以下の寒気を伴うトラフが日本海を東進。



主要じょう乱解説図

２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の台風は、30日にかけて非常に強い勢力や強い勢力で日本の南を東北東進。台風の影響で強い風が吹いて波がうねりを伴って大しけとなる所や、うねりが伝搬する所がある。沖縄地方では28日は高波に警戒し、強風、落雷、突風に注意。東～西日本太平洋側では、30日は強風や高波に注意。

② 1項②の本州付近の前線は、29～30日は西から次第に不明瞭化する。前線に向かって、850hPaの相当温位345K以上の下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う激しい雨が降って大雨となる所がある。これまでの大雨により地盤の緩んでいる所では普段より少ない雨量でも土砂災害の危険度が高まりやすいことに留意。西日本と伊豆諸島では29日にかけて、土砂災害に注意・警戒。西日本では29日にかけて、東日本では30日にかけて、落雷、突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。

③ 1項③の低気圧は、発達しながら、29日にかけて日本海から宗谷海峡付近を通ってオホーツク海に進み、前線が北～東日本を通過する。低気圧や前線に向かう下層暖湿気と1項③の上層寒気を伴うトラフの影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴う激しい雨が降って大雨となる所がある。北海道地方では28日は、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に厳重に警戒。東日本では28日は、北日本では29日にかけて、落雷や突風、降ひょう、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。また、低気圧や前線周辺では強い風や非常に強い風が吹き、波が高くなりしける所がある。北日本では29日は、強風に注意・警戒し、30日にかけて強風や高波に注意。

３．数値予報資料解釈上の留意点　総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

４．防災関連事項［量的予報等］　①雨量(18 時からの 24 時間)：伊豆諸島 100㎜。

②波浪(明日まで)：沖縄 6、北海道 5、東北・奄美 3m。

５．全般気象解説情報発表の有無　「台風第 26 号」を 17 時頃に発表予定。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。